



まだの天龍山暮らし～入門～

天龍村に来て1カ月半ほどが過ぎました。来た頃は暑くて溶けそうになっていたのが、すっかり秋らしく過ごしやすくなってきて、季節の流れを感じます。最近とは言いまして森林に入るにはやはりチェーンソーは欠かせないという事で、安全に使うにあたって伐木の講習会を受けたり、猟銃所持免許の試験を受けたりしていました。どちらも一歩間違つるととても危険な道具なので、実際にあった死亡事故などの授業も受けて気を引き締めながら、なんとか資格を得ることができました。立木を伐木するにはまだまだ危険なので、使いこなせるよう練習しつつ、いずれは台風の後の倒木の処理だとかも手伝えるようになったらなあ、なんて思っています。猟銃の方はこのあとも実技教習や警察の審査など、まだまだ道のりは長いので、引き続き頑張っていこうと思います。

人が入れるほどの大きな窯もありますが、ドラム缶を横に切った比較的小さいサイズの窯もあるので、アウトドアが盛んになってきて薪ストーブ等が見直され始めている現代の田舎暮らしにも、やり方によっては再び存在し続けられるのではないかと感じました。炭焼きの技術をここで絶やすのはとても勿体ないことだと思いますので、技術を受け継ぐことができたかと思っています。好きなことを突き詰めると女性らしさからかけ離れていきますが、こういった事が大好きなので、なにかオススメがあれば是非ありが隊の前田までご一報ください。

伐木講習の様子↓



焼いた後の炭↑

その他にも村の方に炭焼きを教えて頂いているのが、今の楽しみのひとつです。早速チェーンソーの資格が大活躍しています。実際に自分で木を伐りだして炭を焼いていて、もうすぐ窯出しなのですが、料理に使ったり、掘りごたつに使ったり、炭がある暮らしは本当に豊かだと改めて感じています。

秋分に入りました

こんにちは。
地域おこし協力隊の本多紗智です。
今夏の異常なまでの暑さもようやくひと段落付き、日ごと秋の気配が濃くなってきました。この新聞が配布されるのは秋分の日でしょうか？ 過ごしやすくなると同時に真夏の疲れが出てくるころだと思えます。体調管理が難しい時期ですね。

半年間の振り返りと協力隊に思うこと

天龍村に来て約半年が過ぎました。この半年間の間にやってきたことを振り返ってみると、どの田舎でも出来ることをやってきたな、というのが正直なところだと思います。
地域おこし協力隊という期間限定の看板を背負って、何かしらの縁があつて天龍村にいるとは思つたので、この場所だからこそ出来ることを自分なりに探していきたいと思つています。
地域おこし新しいことをして注目されること？ 特産品を増やすこと？ 都会から移住者を呼ぶこと？ 関係人口を増やすこと？ 伝統文化を継承すること？ 耕作放棄地の活用？
明確な答えのない複雑な状況の中、日々悩みは尽きませんが…。

地域づくりと田舎回帰志向

変わり者・変人扱いされたことと聞くともある田舎回帰志向も、数年前と比べるとだいぶマイノリティではなくなってきたように感じます。協力隊の制度がだいぶ一般化したのも一因の一つかもしれません。
ちなみに私は、東日本大震災の後に経験した新潟県山古志村での農山村生活体験インターンシップを通して、地域づくりという未知の世界に好奇心をかき立てられ、様々な農山村や離島の生活を今に至ります。
地域の風土を作っているのは人
日本の田舎の美しい自然景観の背景には必ず人の手が入っている、というように民俗学者・宮本常一さんの言葉を知った時、自然は人間から隔離された姿が一番美しいと決めつけていた自分は本当に無知だったな、と感じました。
また、豊かな自然に満ちた心に残る風景は日本全国どこにも見ることができませんが、その背景にある「人」は誰一人同じというのではなく、一人ひとりが唯一無二の存在であるという当たり前のことに気づかされました。
地域の風土の根幹を形作っているのは、そこに暮らす人々に他ならないのではないかと、私は思います。

今年の後半にやりたいこと

今後の活動予定ですが、農閑期である秋後半、冬の間は、山仕事の勉強や、山の資源を活かしたもののづくり、この村の戦前、戦中世代の高齢者の方々、または何かの達人(名人)である方にお会いし、何度かに分けてお話を伺い、書き残す作業をしていきたいと考えています。
遠い昔から現代まで続いている、古典的なこの骨の折れる作業は、私が月に一度勉強に通っているなりにわい塾にて正統な手法を学んできたものでもあり、端的に言えば「人生を記録する作業」と呼べるのではないのでしょうか。
今回のプログラムのの中では、戦中の貧しい家庭に生まれ、徹底的に体を使いながら、ひたすらに生きるために生きてきた」と言える八七歳の女性にお話を伺い、現在、文字に起こす作業を宿題として持ち帰って作業しています。
典型的な純山村であるこの厳しい環境の中で、たくましく生きてこられた天龍村の方々の貴重な声を、少しでも後世に残していく作業の一端を担うことが出来れば光栄です。

今月の明花

(文：西野明花)

9月9日(日)に自慶院・老人福祉センターにて結婚披露宴を行いました。

昨年は村澤雄大さん・葉花さんの結婚式があり、まさか自分の番がこんなにも早く来るとは思いませんでした。2人を追いかけるように、結婚・妊娠したことをここでご報告させていただきます。

日頃、村の方への感謝の気持ちを伝えたく、結婚披露宴を開かせていただきましたが、前日までの準備・当日のスタッフ等すべてを村内村外周りの人に助けて頂きました。ご協力してくださった方本当にありがとうございました。改めて、ここで結婚・生活することが出来てうれしく思います。



11月2日(金)を持って産休に入らせて頂くと考えています。戻り次第また協力隊として働かせていただく予定ですので、産休・育休中は計画を練りながら、動ける範囲で動いていけたらと思います。一旦残りわずかですが、よろしくお願ひいたします。

第3回 侍もフェスティバルのお知らせ

今年もこの季節がやってきました。踊りや笛・太鼓のお練りをしてから、串芋をみんなで囲みましょう！



日時：11月3日(土)12:00～15:30頃
場所：中井侍集会所
参加無料
お気軽にお立ち寄りください。

里芋大募集中!!

お練り参加者も募集しています!!

どうぞよろしくお願ひいたします。
主催 芋フェス有志の会
お問合せ tsumemogaki@gmail.com
0260-32-2158(内藤)

文:上野 真純



やっと過ごしやすいな
 きましたね。
 9月は、大型の台風が来
 たり北海道では大きな地
 震があったりして自然の恐
 ろしさを改めて感じました。
 もしも天龍村に大きな地
 震があったら…。悲観的に
 考えすぎてしまうのは、ど
 うかと思いますが、誰かが
 何とかしてくれるだろうと
 楽観的になりすぎてしまう
 のもどうかと思います。今
 一度自分でできることを考
 えてみるのもいいのではな
 いかと思いました。



グリーンカレー
辛いです。

にせんじカフェ 10月 営業日

19日(金)、27日(土)



営業時間 14時から20時まで(19時30分ラストオーダー)

店に本を少しずつ置くようにしてます。



最近の過ごし方 文:柴田 大輔

こんにちは!涼くなったので
 とても過ごしやすくなりましたね。
 9月は変わらずなすをやっています。
 8/20(月)~23(木)まで長野大学の
 学生が来ました。隊員1人1人が
 インタビューされたのですが、私
 はきわどい質問にも答えることが
 できたと思っています。学生の質
 問に答えながら私自身が活動で気
 付くところがあったり、腹を割っ
 て話すことは大切やなと思った
 り、外部との関わりは刺激をもら
 えて大事やなと思いました。

みんなのインタビューの結果を
 踏まえて学生たちがどんな研究
 をするのか個人的に興味があり
 ます。結果は後ほど送ってくれ
 るそうなので楽しみです。
 9月29日(土)に東京・
 巣鴨でConnect with TENRYUが行
 われます。天龍村のリアルな生
 活を知ってもらうために私も行
 きます。行くからには何でもい
 いんで他の人から刺激をうけて
 学びたいです。

今年は遠慮せずになす栽培に関
 しては自分のやりたいようにでき
 ました。着任してから何事も遠慮
 せずに仲間のことも考えず自分勝
 手に行動してればどうなっていた
 のかを考えます。身近な人を見て
 ると腹を割らず愛想をふりまくこ
 との必要性を感じます。必要だと
 わかっていてもまだそんな人達に
 はなりたくないと思います。でも
 必要なんでしょうね。それはわか
 ってるんですけど。難しいな。

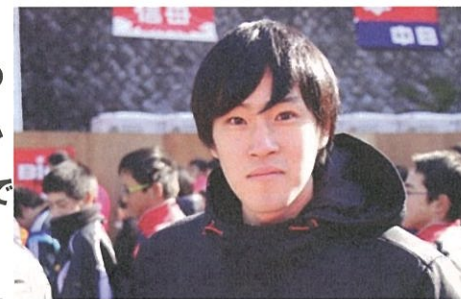


活動報告

~協力隊になってから11ヶ月が経ちました~ 添田 緑瑛

協力隊になってから11ヶ月が経
 ちました。社会人になってから半
 年が経過しています。そして、昨年
 の11月に協力隊となり、早くも一
 年が経とうとしています。色々な出
 来事がありました。それらを昨日
 のことのように思い出せます。
 大学4年次に就任したとき、不
 安で一杯だったのが懐かしいです。
 同級生大半が就活を終えて、来年
 からサラリーマンとして働こうと
 して行く中、自分一人が地域おこ
 し協力隊という全く別の道に進み、
 この先どうやって行くのだろうと毎
 日が不安でした。

就任してからは、1年更新の最
 大3年間という定められた期限の
 中で、自分がいかに成長できるか
 が大切だと思っていました。少しで
 も興味を持ったことには首を突っ
 込んで行くようにし、とにかく努力
 しないと3年後に痛い目を見るの
 ではないか、という焦りがありまし
 た。が、そういう過去を振り返ると、
 良くも悪くも人は変わるのだな~、
 と現在と比較し感じる日々です。
 1年という節目を近くに、様々な
 ことを思い返しなが記事を書き
 ましたが、改めて協力隊になって
 良かったと思います。



↑2月



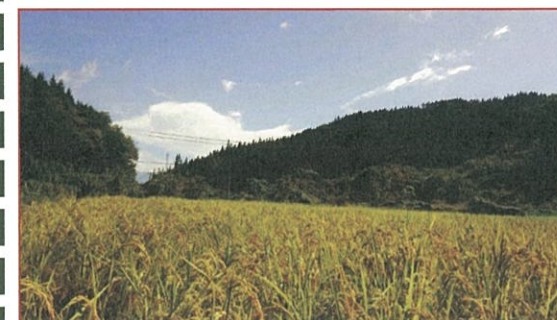
↑9月

ゆらゆら変遷記~天龍村Ver.~ 【文:初瀬健太】

天龍川を挟むように切り立つ山々を見ていると、8月
 の終わりごろからため息をつくように色を落とし始めた
 ような気がします。標高の高いところではすでに秋の香
 りにさっと掃かれて、一葉々々が季節の移ろいを知らせて
 くれます。

さて、大河内の田んぼですが台風で一部が倒れたこと
 と、ぐずついた天気が続いたためにいもち病がやや広
 がっているところがあります。初期または追肥で窒素分
 がやや多かったことも原因の一つだと思われますが、今
 からどうこうできる問題ではないので、ただ祈るだけ
 です。稲刈りは新野のライスセンターにお願いしているた
 め、一番最後に回ってきます。すごくもどかしいと言
 うか、ベストのタイミングで刈れないのが残念です。田植
 え・出穂の時期からすると10月頭に稲刈りができたら
 いいんですけどね。水を切る時期も悩みますし。天気、圃
 場、コンバインが来るであろう日等を考慮して9月20日
 (木)には切ろうかと考えています。来月の新聞はおそ
 ろく稲刈りのことが書けるかな。とても不思議な気分です。

あと、アケビが実っています。紫色に染まって割れたの
 を確認したのは9月10日(月)でした。小学生のころに必
 死に採った思い出が悲しく映るくらい、手の届くところ
 にたわわに実をぶら下げています。味は柿を上品にさら
 に甘くしたような感じですかね。和菓子みたいな。天候
 によって変動はありますが、10月の上旬も食べられると
 思うので、ぜひ皆さん遊びに来てください!



と
じ
ろ